

錦江町合同金婚式に6組の夫婦が参加 夫婦で苦楽を乗り越えて50年

結婚50年の節目を祝う合同金婚式が10月25日に錦江町役場田代支所で行われ、6組12名が参加しました。本州と九州を結ぶ関門橋の開通や大相撲の輪島が第54代横綱に昇進などがあった1973年代。参加者を代表して今隈幸一さん夫婦が「今後とも健康に気を付けて夫婦仲良く過ごしていきたい」と感謝を伝えました。



夫婦で三献の儀で杯を交わし、これまで以上に固い絆を結びました。結婚当手を振り返る新聞記事や記念品が贈られました。

職員は町内9事業者でつくる組合内のさまざまな職場に派遣されます。本釜さんは最初の3か月間、「ふる里館」で勤務。



錦江町MIRA Iサポート協同組合組入式 職員第1号に本釜拓弥さんを採用

錦江町MIRA Iサポート協同組合の職員第1号の組入式が10月2日に錦江町役場で行われました。採用された塩屋出身の本釜拓弥さんは鹿屋市での販売経験があり、親の勧めで応募。本釜さんは「接客業を活かしながら、いろいろな職業を経験して、いずれは町内で農業か事業をしていきたい」と意気込みを語りました。

ひかり青空市実行委員会メンバーが企画 地域に交流の場を作りたいと実施

ひかり青空市実行委員会メンバー6名が地域に交流の場を作りたいとの思いから今回初めて「ひかり青空市」を行いました。10月29日にひかり保育園跡で開催され、飲食や雑貨、子ども向けに段ボールで作った家などのブースを設置。出店者や来場者との会話、子どもたちが遊んでいる賑やかな声が会場に響いていました。



ひかり青空市実行委員会の木下夫婦は「今回の企画が地域交流や場所の活用法を考える第一歩となってほしい」と話しました。

児童たちは6チームに分かれ、役場職員が考えた町や役場の仕事に関するクイズをみんなで協力しながら挑んでいました。



町のことや役場の仕事をクイズで学ぶ 町内小学校の児童32名が交流

10月21日、町内小学校の児童たちに交流の機会を設けようと役場の若手職員が企画した「謎解きは庁舎の中で」が開催されました。庁舎内を巡るスタンプラリーが行われ、1～6年生32名が参加。いちごチームの中浜心春さん(大根占小5年)と笑喜澤奈さん(宿利原小3年)は「違う学校の人と仲良くなれて楽しかった」と話しました。

神川小からは5年生5名、6年生6名の児童が参加。6年生の堀之内そよさんは保育士、建築士、デザイナーの3人の講師と意見を交わしました。



将来の夢や職業に繋がる体験 お仕事バイキング開催

9月25日から2日間、町内6小学校の5・6年生105名を対象に将来の夢や仕事について考えるキャリア教育として「お仕事バイキング」が行われました。野球選手やパティシエなど20職種の講師からそれぞれが聞いてみたい職種を選択しオンラインで交流。仕事内容や考え方など普段聞けない講師の話に、熱心に耳を傾けていました。

令和5年度錦江町社会福祉大会を開催 地域福祉の更なる向上を目指して

10月21日に錦江町社会福祉大会が町文化センターで開催され、約200名が来場しました。オープニングアトラクションでは田代幼稚園の園児による太鼓とお遊戯、未来づくり専門員の伊藤愛さんがフルートの演奏を披露。町の社会福祉向上に貢献された個人・団体を称える錦江町社会福祉協議会会長表彰が行われ、個人では心配ごと相談員として平成20年2月より務めている白川弘さんが受賞されました。また、団体では町内8小中学校がボランティア協力校として受賞。秋田県藤里町社会福祉協議会会長の菊池まゆみ氏による「社会的孤立を防ぐ」をテーマにした講演会も行われました。

